

令和4年度 地域管理経営計画等に関する検討会  
委員からの主な意見

開催日時：令和5年3月16日（木）13:30～15:30

開催場所：四国森林管理局 研修室（6階）

- 森林の土地の保全のために林産物の搬出方法を特定する必要がある森林について、その搬出方法は主に架線集材となる。病虫獣害や既設施設の確認・管理等の妨げにならないよう、当該森林における路網管理も出来る運用を検討していただきたい。
- 四国は労働者が慢性的に不足している。今後も人工林施業を維持する森林、条件が悪く人工林施業から撤退していく森林というような見直しを、これから検討していただきたい。
- 現行計画の計画量と実行量の乖離が毎回みられる。木材は輸入の方が多いので、国産材のシェア拡大のポテンシャルがある。齢級配置も高齢級が増えており、伐採により新たな造林やカーボンニュートラルなどへの貢献も必要。計画と実行の乖離を少なくしていただきたい。
- 肱川森林計画区では、人工林のシカ被害を始め、保護林などの天然林もシカによる植生の変化が生じ始めている。天然林もシカの被害から守るために調査や巡視等を行っていただきたい。
- 安芸森林計画区の緑の回廊では、民有林にも緑の回廊連携協定が締結されている。30by30 目標（生物多様性条約第15回締約国会合(COP15)の決議等に基づく目標。2030年までに陸域と海域の30%以上について生物多様性の保全を目指すもの。）の推進に資するよう、このような取組を全国的に広げて行っていただきたい。
- 香川県産材を利用したいが、県産材だけでは供給が足りていない。四国产材を利用するにしても安定的に供給されているのか情報が欲しい。